

IV. 調査結果のまとめ

1 健康状態について

■健康や体力について感じていること

健康であると答えた人と、体力に自信があると答えた人の割合は、運動やスポーツをしている頻度が高い人ほど多くなっており、運動やスポーツをすることが主観的な健康状態のよさにつながっていることがうかがえます。(図 3-1-2、図 3-1-5)

■運動不足を感じている人

運動不足を感じているのは、男性では 30 代がもっとも多く、女性では、30 代から 50 代までの、主に就労や子育て世代に多くなっています。特に 30～50 代の女性は運動不足を感じている人が約 5 割近くになっています。(図 3-1-8)

■健康管理や体力の保持増進のために心がけていること、好きなことができる時間の過ごし方

健康管理や体力の保持増進のために心がけていることとしては、食生活に気をつけると回答する人が最も多く(25.5%)、運動やスポーツをするのは約 1 割にとどまっています。性別にみると男性は女性より運動やスポーツをするの割合が高く、約 2 倍となっています。「好きなことができる時間の過ごし方についても、運動やスポーツを挙げる回答は少なく、特に女性は「運動・スポーツをする」との回答が少なくなっています。(図 3-1-10、図 3-1-12、図 3-1-13、図 3-1-15)

2 運動やスポーツの実施状況について

■運動やスポーツの取り組みが少ない人

女性は男性より『運動やスポーツをしている』人が少なく(男性 43.5%、女性 33.8%)、特に 18～19 歳、30～50 代の女性は 1 割も満たしていません。『運動やスポーツをしている』人が最も少ないのは 19 歳以下の女性(0.0%)で、次いで 50 代の女性(6.3%)となっています。男性は 50 代(10.9%)が最も少なくなっています。(図 3-2-3、図 3-2-4)

また、暮らし向きがよくない人と考えているほど、運動やスポーツの取り組みが少なくなっていることや、運動やスポーツをしたいができない理由として、まったくゆとりがない人では「お金がかかるから」との回答が 4 割近くあることから、経済的な要因が運動やスポーツの実施状況に影響を及ぼしていることがうかがえます。(図 3-2-22、図 3-2-25、図 3-2-5)

■運動やスポーツの取り組みが少ない理由

運動やスポーツをしたいができない理由については、男性では、30 代から 50 代が「仕事が忙しくて時間がないから」が最も多く、女性では、30 代の約 7 割が「家事や育児が忙しくて時間がないから」、40 代、50 代の約 5 割以上が「仕事が忙しくて時間がないから」を挙げています。(図 3-2-12、図 3-2-13)

30 代から 50 代の男性は、1 週間の就業時間が 50 時間以上の割合が他の年代に比べて高いことから「仕事が忙しくて時間がないから」という理由がスポーツ実施率の低さにつながっていると思われます。(図 2-8)

■運動やスポーツをしたいが、なかなかできない人

「運動やスポーツをしたいが、なかなかできない」人は、女性の30代から60代で5割を超えています。(図3-2-4)

「運動やスポーツをしたいが、なかなかできない」人が、もし運動やスポーツをできる状況になった場合に、運動やスポーツをしたい曜日は、男性は年代によって「平日」や「土・日・祝」に意向が分かれるものの、女性の50代以降は「平日」が多くなっています。運動やスポーツをしたい時間帯については、男女ともにおおむね20代～50代の就労・子育て世代では「夕方、夜」との回答が多くなっています。一方60代以上の高齢層では「午後」との回答が多くなっています。(図3-2-16、図3-2-18)

■普段行っている運動、今後行いたい運動

普段行っている運動は、全体にみても、性別にみても、「ウォーキング」が1位となっており、老若男女に幅広く「ウォーキング」が取り入れられていることがうかがえます。(図3-2-30、図3-2-31) 2, 3位のスポーツ種目を見ても、体操、室内競技、ジョギングなど一人で比較的気軽に取り組める種目が挙がっています。

今後行いたい運動は、男女ともに1位は「ウォーキング」となっています。(図3-2-32)

■スポーツクラブなどへの参加状況

スポーツクラブなどに「参加している」人は17.4%、「今は参加していないが、いずれ参加したい」人は19.9%となっています。(図3-2-33)

「運動やスポーツをしたいが、なかなかできない」人は、32.1%が「今は参加していないが、いずれ参加したい」と回答しています。(図3-2-35)

参加しているまたは参加したいスポーツクラブなどについては、「おおむね市内の人が加入している地域のクラブや同好会」が56.8%と多くなっています。(図3-2-36)

3 スポーツに関するボランティア活動について

■スポーツに関するボランティアへの参加状況

スポーツに関するボランティア活動に参加したことがある人は9.5%と1割にも満たない状況です。(図3-4-8) また過去調査と比較すると徐々に減少(15.2%→10.2%→9.5%)しています。(図3-3-1、図3-3-3) また、ボランティア活動に参加したくないと答えている人が7割を超えています。(図3-3-4)

■スポーツに関するボランティア活動への参加意向

スポーツに関するボランティア活動への参加意向については、『参加したい』との回答は全体では22.7%で、おおむね低い年代ほど『参加したい』との回答が多くなっています。(図3-3-4、図3-3-5)

4 京丹後市のスポーツ施策について

■京丹後市のスポーツ施設の利用状況

京丹後市のスポーツ施設を利用したことがある人は42.8%で、低い年代ほど利用者が多くなっています。(図3-4-1、図3-4-2)

使用したことがある施設・設備は、「体育館」「市内小学校の学校施設」「峰山途中ヶ丘公園」が多く使用されています。(図3-4-4)

■総合型地域スポーツクラブの認知度

総合型地域スポーツクラブを知っている人は12.0%と約1割にとどまっています。(図3-4-6)

居住地域別にみると、網野町で認知度が最も高くなっています。網野町の総合型地域スポーツクラブが活発に活動していることがその理由と考えられます。(図3-4-7)

■京丹後市が主催するスポーツイベントへの参加状況

京丹後市が主催するスポーツイベントに参加したことがある人は19.1%で、前回調査(17.2%)と比べてわずかに増加しました。(図3-4-11)

参加したことがある年代は、20代が26.0%と最も多く、70代は10.2%しかありません。また、40代以下の年代は、京丹後市が主催するスポーツイベントの認知度が低く、50代以上の年代は「知っているが、参加したことがない」人が多くなっています。(図3-4-9)

■行ったことがあるニュースポーツ

ニュースポーツについては、「行ったことがない」との回答が約6割を占めています。行ったことがあるニュースポーツは、「ファミリーバドミントン」が7.7%、「ペタンク」が7.1%、「きばれえ」が6.6%、「ビーチボールバレー」が6.2%「ノルディックウォーキング」が4.9%となっています。(図3-4-12)

■スポーツ推進委員の認知度

スポーツ推進委員を「知っている」人は32.7%で、前回調査(37.4%)と比べて減少しています。(図3-4-14、図3-4-16)

年代別にみると、おおむね低い年代ほど認知度が低くなっています。(図3-4-15)

■スポーツの振興・発展のために、京丹後市に求めること

スポーツの振興・発展のために、京丹後市に求めることは、「スポーツ施設の整備・充実」「中高年者のスポーツ活動の推進」「初心者向けのスポーツ教室の充実」が多く挙げられています。(図3-4-17)

過去調査と比べると「スポーツ施設の整備・充実」「総合型地域スポーツの拡充」を求める人の割合が増えていますが、ほかの項目は減少もしくはほぼ同じ割合となっています。(図3-4-18)

5 スポーツに関する情報について

■京丹後市のスポーツに関する情報を見聞きしたことがある媒体

京丹後市のスポーツに関する情報を見聞きしたことがある媒体は、「広報紙」が他の媒体を大きく上回り、最も多くなっています。(図3-5-1)

■スポーツに関して知りたい情報

スポーツに関して知りたい情報は、「自宅や職場などで簡単に行える運動の情報」が最も多くなっています。次いで「市内のウォーキングコースの情報」「スポーツ教室開催の情報」「市内にあるスポーツクラブやサークルについての情報」が多くなっていますが、「知りたい情報はない」という人も18.9%います。(図3-5-3)

6 障害者スポーツの振興について

■障害者が日常生活の中でスポーツするために必要なこと

障害者スポーツの振興のために必要と思われることは、「障害者に配慮したスポーツ施設・設備の整備」が最も多くなっています。次いで「きっかけづくりや仲間づくりのための障害者スポーツ教室の開催」「障害者をサポートするスポーツボランティアの養成」「障害者をサポートするスポーツボランティアの養成」が続いています。(図3-6-1)

7 現在の子どもを取り巻く環境について

■自身の子どものころと比較した、現在の子どものスポーツ等の環境

自身の子どものころと比較した、現在の子どものスポーツ等の環境は、『よくなった』の29.7%に対して、『悪くなった』が50.8%と過半数を占めています。(図3-7-1)

■子どもの体力・運動能力向上のために、家庭などで取り組んでいること

子どもの体力・運動能力向上のために、家庭などで取り組んでいることは、「外遊びの時間を多くとる」「朝食を食べさせる」「運動部活動やスポーツクラブへの参加を促す」「子どもと一緒に運動やスポーツを行う」人の割合がいずれも3割程度となっています。(図3-7-3)